

医師への可動域測定依頼状

関節可動域（ROM）の正確な確認・再測定をお願いするためのテンプレート

この文書の目的

特定の後遺障害等級に該当する数値への変更を求めるものではありません。現在の医学的状态を、基準に沿った条件で正確に確認・記録していただくことを目的とします。

提出日： 年 月 日

先生 御机下

いつも治療いただきありがとうございます。交通事故による後遺障害申請を予定しており、関節可動域について確認が必要となりました。お忙しいところ恐縮ですが、後遺障害診断書の作成・確認に際し、可能な範囲で下記項目をご確認・測定いただけますと幸いです。

1. 患者・対象部位

患者氏名	
交通事故日	年 月 日
対象関節	☐ 肩 ☐ 肘 ☐ 手関節 ☐ 股関節 ☐ 膝 ☐ 足関節 ☐ その他（ ）
患側	☐ 右 ☐ 左

2. ご確認・測定をお願いしたい事項

- 患側および健側の関節可動域を、同じ条件でご確認ください。
- 後遺障害評価の対象となる主要運動を漏れなく測定してください。必要に応じて参考運動もご確認ください。
- 関節可動域は原則として他動運動による測定値をご記載ください。自動運動を用いる場合は「自動」等と明記してください。
- 角度計を使用し、基本軸・移動軸、測定肢位および代償運動にご配慮ください。通常は5度刻みでの記録が基準とされています。
- 通常と異なる肢位で測定した場合、疼痛等が測定値に影響する場合は、その旨を併記してください。
- 過去のリハビリ記録等と大きな差がある場合には、可能であれば測定条件をご確認のうえ再測定をご検討ください。

3. 関節別の主な確認項目

関節	主要運動	参考運動
肩関節	屈曲、外転・内転	伸展、外旋・内旋

関節	主要運動	参考運動
肘関節	屈曲・伸展	-
手関節	屈曲・伸展	橈屈・尺屈
股関節	屈曲・伸展、外転・内転	外旋・内旋
膝関節	屈曲・伸展	-
足関節	背屈・底屈	-

足関節の表記について

2022 年改訂の「関節可動域表示ならびに測定法」では、足関節の矢状面運動は「背屈・底屈」と表記します。

4. 再測定・訂正をお願いする場合

後遺障害診断書と診療録・リハビリ記録等の数値に明らかな差がある場合でも、特定の等級に合わせた訂正をお願いする趣旨ではありません。まず同一基準で再測定いただき、転記ミス・左右取り違え・測定項目の不足等が確認された場合には、医療機関の正式な方法で訂正をお願いいたします。

5. 医師記入欄（必要に応じて）

運動	患側	健側
	○	○
	○	○
	○	○
	○	○

ご注意ください

本テンプレートは一般的な確認事項を整理したものです。実際には、受傷部位・症状・手術内容・神経障害の有無等に応じて必要な測定項目が異なります。弁護士が受任している場合は、個別事案に合わせた依頼状を作成することを推奨します。

患者氏名：